

評価対象	評価項目	具体的数値項目	達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題	
			①	②	総合				
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	1) コース制・選択科目等を導入している教育課程(カリキュラム)に生徒の80%以上が満足している。(A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満)	A	A	A	・再編された各学科コースの特徴や専門的教育内容が、2・3年生になることで更に専門性が高まり、社会的ニーズや高度化する社会に対応できる能力を伸ばす授業が展開できるよう努める。 ・令和4年度からの新学習指導要領実施に伴う新たな教育課程について、教育効果が更に高まるよう検証しながら実践してゆく。	・大手企業のプロを招き養豚の現状や動物の病気を学ぶ機会を生徒に与えたり、前橋商業高校と連携して勢多農の果物を使用したパフェづくりを行ったり、群馬の次世代の農業を担う子どもたちに人となることが大切さを学ばせ、更に発展させるきっかけを提案できる素晴らしい活動を展開していると思います。 また、勢多農の生徒が取り組む和太鼓や八木節のパフォーマンスは素晴らしい。フラワーパークや桂置地区の文化祭等地元の人々に笑顔を届けられるのだと感じています。これも勢多農の新たな特色の一つとして、継続していくべき活動ではないかと感じました。 ・唯一無二の内容をブランディングに努めている様子がよくわかり頼もしく感じます。 ・よく取り組んでいると思います。 ・コース改編が行われたが、カリキュラムや学校に、生徒、保護者ともに大多数が満足しているということは、各コースの特色を生かした授業が行われているからだと思う。これからは進路選択につながる、専門性の高い魅力的な授業を行ってほしい。	・新学科での教育活動や新学習指導要領を踏まえた特色ある新しい教育課程において、本校の特色を生かした学習指導を実践してゆく。 ・今後の農業の将来性や課題を踏まえて教員の専門性を一層向上させ、指導内容や指導体制の充実を図る。	
		2) 地域交流、地域貢献の活動、高大連携等に全学科で取り組んでいる。(A 全学科 B 5学科以上 C 4学科以上 D 3学科以上)	A	A	A	・各科各コースの専門性の向上や充実した農業クラブ活動につなげるため、大学での研究の動向を知ったり、社会人講師を招いて最先端の分野を取り入れた授業を行う。 ・地域社会の課題やニーズを理解し、将来に向けた課題解決に取り組むため、授業内容や指導方法を工夫する。			・研究レベルの向上と新しい連携の開拓を目指す。また、農業クラブ活動など放課後の活動につなげる指導を行う。 ・勢多農ブランドの確立とより質の高いレベルでの継承、新たなブランドの開発に向けた取り組みを継続する。
		3) 学校が好きだと感じている生徒が70%以上である。(A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満)	A	A	A	・進路指導、学習指導、生徒指導、保健指導を統合した基本的な生活習慣を確立させ、心身ともに健康的な生活を維持し、生徒がより充実した学校生活が送れるよう、あらゆる場面で指導として捉え、魅力ある学校づくりに継続する。			・生徒がより充実した学校生活が送れるよう、学習指導、進路指導、HR指導、部活動指導、学校行事の運営等について、内容や指導方法を工夫する。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒実態に応じた指導を行っていますか。	4) 授業に生徒の75%以上が満足している。(A 90%以上 B 75%以上 C 60%以上 D 60%未満)	A	A	A	・ICT機器を効果的に活用することで、双方向でやりとりが展開する魅力ある授業を更に目指す。 ・新学習指導要領を踏まえた主体的で対話的な深い学びを意識した授業改善に継続して取り組む。 ・生徒にとって「わかる」授業を展開し、個に応じたきめ細やかな指導等で、成績不振者を出さないよう一層の工夫・改善を行う。	・授業の中で生徒・教師ともにICT機器を学習道具の一つとして日常的に活用していることは素晴らしいです。その成果は、生徒活動報告をしてくださった3名のプレゼンテーションからもうかがうことができました。自分たちが行ったことをパワーポイントにまとめ、わかりやすい資料となるように編集して発表をする生徒たちの姿はとても頼もしく感じました。これからの社会を担う生徒たちに必要な知識と実業高校ならではの専門的な知識をバランスよく今後も指導していただけることを願っています。 ・先生方のきめ細かい指導で生徒一人ひとりに居場所や活躍する場が確保されているものと思う。それが退学率などの低さに現れているものと思います。 ・進学者が増加していることとお評価いたします。 ・基礎学力の定着、向上のため、各種テストや授業の工夫、また大学進学希望者のための教科別指導などのきめ細かい指導が行われ大学進学者も順調に増えている。 ・生徒の進路選択の幅が広がっていると思う。 ・各種コンクールへの積極的参加、また各賞受賞などは、生徒の学習意欲向上につながっていると思う。	・カリキュラムマネジメントを更に回り、専門科目と普通科目との連携を進め、学習意欲の向上と基礎学力の定着を図る。 ・「主体的、対話的で深い学び」の授業を展開し、指導と評価の一体化のための、指導方法や評価方法の更なる工夫・改善を行う。 ・学習用端末やICT機器の効果的な活用をさらに進め、職員の授業改善に対する意識を高める工夫を行う。 ・新学習指導要領に対応した新たな学習評価について研修を重ねるとともに、魅力ある授業実践を図る。	
		5) 授業改善のための研修会等を3回以上実施している。(A 年4回 B 年3回 C 年2回 D 年1回)	A	A	A	・BYODを見据えて、ICT機器を活用した授業に更に積極的に取り組むとともに、新しい3つの観点に基づいた指導を工夫し、指導と評価の一体化を図る。 ・教員相互の授業参観をより充実させ、授業方法や評価に関する意見交換を活発化させるとともに、ICTの効果的な活用を更に進める。			・学習用端末やICT機器の効果的な活用をさらに進め、職員の授業改善に対する意識を高める工夫を行う。 ・新学習指導要領に対応した新たな学習評価について研修を重ねるとともに、魅力ある授業実践を図る。
		6) 意欲的に学習に取り組んでいると自己評価している生徒が70%以上である。(A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満)	A	A	A	・専門分野と一般教科、更に進路目標との関連を持たせながら学習目標や学習方法を明確化する。 ・ICT機器等を活用して、生徒にとってわかりやすい授業、魅力ある授業、授業参加が実感できる授業を目指す。			・進路との関連を持たせながら目標を明確にするとともに、学習用端末の活用を習慣化し、生徒にとってわかる授業、興味ある授業を目指す。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	7) 生徒クラブ活動に生徒の70%以上が満足している。(A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満)	A	A	A	・活動場所と時間を確保し、生徒の主体的で自律的な活動を図る。 ・生徒クラブの各種行事には生徒の意見をなるべく取り入れる工夫を行う。 ・感染症対策をしっかりと行うことで実施できる生徒クラブ行事を立案し運営する。	・コロナ禍が続く中、思うような高校生活を送れず心を病んでしまう生徒も多いことでしょう。勢多農では職員研修で「自殺防止の研修」を行ったり、「ヤングケアラー問題」「性的マイノリティ」等の情報を共有したり、全校活動で生徒に「表に出せない相手の気持ち」を考える活動を行ったりと生徒一人一人を大切にするための活動を行っていることが素晴らしいです。だからこそ8割以上の生徒が自分の学校を「好き」といえるのだと思います。今後も先生方には個々の生徒に寄り添った指導・支援を行っていただき、生徒一人一人が充実した高校生活を送れることを願っています。 ・コロナ禍による行事縮小から、文化祭、修学旅行等が実施できた事は、学校生活の充実につながったと思う。 ・入学後にコース選択不適合や人間関係のつまずきで欠席生徒に対して、コース変更などの救済措置があったらいいと思う。 ・よく取り組んでいると思います。	・生徒同士が主体的に活動できる行事運営になるよう工夫する。 ・生徒の意見が反映された生徒クラブの行事になるよう工夫を行う。 ・問題行動の未然防止のため指導や教育相談活動を一層充実させる。 ・職員も率先してあいさつを行い、あいさつ励行の機運を更に高める。	
		8) 頭髪服装指導、登校時指導、校内巡回指導を定期的に行っている。(A 定期的 B 月1回以上 C 学期2回 D 学期1回)	A	A	A	・所属別で毎朝実施している玄関指導や雨合羽指導等を工夫改善しながら効果的に実施する。 ・問題行動の未然防止やコロナ感染症の拡大防止のため、校内巡視指導を効率的、効果的に実施する。			・二面談、三面談等を通じて生徒、保護者と緊密な連携を図る。 ・学校外の諸機関や教育相談係、スクールカウンセラー等を活用し早期の対応に努める。
		9) 自ら進んで挨拶できる生徒が70%以上である。(A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満)	A	A	A	・全職員が挨拶に対する意識を持ち、挨拶励行の気運を高め、あいさつ運動のさらなる推進をはかる。			・本人への自覚を促すと共に家庭への連絡を徹底する。 ・家庭連絡の徹底と保護者との情報共有を図り、長欠生徒については教育相談係やスクールカウンセラーも活用して早期対応を徹底する。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に行っていますか。	10) 生徒へのアンケートを3回実施し、組織的にいじめの未然防止、早期対応に努めている。(A 年3回以上 B 年2回 C 年1回 D 年0回)	A	A	A	・引き続き法令に則り、いじめ対策委員会を開催し、早期の課題の理解に努めていくとともに、二面談を充実させる等生徒の実態把握に努める。 ・スクールカウンセラーも活用して教育相談活動と生徒情報の共有化を図る。 ・家庭との連携を密にし早期対応に努めるとともに、状況に応じて外部の職者や医療機関とも連携を図る。	・生活相談アンケートや二面談を通じて早期の悩みの把握に努めるとともに、個に応じた対応を図る。 ・状況により、スクールカウンセラーや教育相談係と連携する。 ・必要に応じて保護者との連携を密にし早期対応に努める。	・本人への自覚を促すと共に家庭への連絡を徹底する。 ・家庭連絡の徹底と保護者との情報共有を図り、長欠生徒については教育相談係やスクールカウンセラーも活用して早期対応を徹底する。 ・引き続き法令に則り適切に対応していく。 ・二面談、三面談等を通じて情報の共有化と実態把握に努める。 ・教育相談係やスクールカウンセラーも活用し、生徒理解に努める。	
		11) 遅刻率は1.2%(8.6人/日)以下である。(A 0.8%以下 B 1.2%以下 C 2.4%以下 D 2.4%以上)	A	B	B	・生徒や家庭の実態に応じて個別の対応を図るとともに、教育相談係やスクールカウンセラーとも連携を図って対応する。 ・学級担任や学年にとどまらずに全職員で遅刻指導に当たる。			・本人への自覚を促すと共に家庭への連絡を徹底する。
		12) 欠席率は1.7%(12.2人/日)以下である。(A 1.3%以下 B 1.7%以下 C 2.2%以下 D 2.2%以上)	B	C	B	・保護者との連携を密にするるとともに、体調についての自己管理能力の育成を促し、健康維持に努める。 ・状況により教育相談係やスクールカウンセラー、外部機関とも連携して指導に当たる。			・家庭連絡の徹底と保護者との情報共有を図り、長欠生徒については教育相談係やスクールカウンセラーも活用して早期対応を徹底する。
6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	13) 学校での人間関係をスムーズに行っている生徒が80%以上である。(A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満)	A	A	A	・生活相談アンケートや二面談を通じて早期の悩みの把握に努めるとともに、個に応じた対応を図る。 ・状況により、スクールカウンセラーや教育相談係と連携する。 ・必要に応じて保護者との連携を密にし早期対応に努める。	・生活相談アンケートや二面談を通じて早期の悩みの把握に努めるとともに、個に応じた対応を図る。 ・状況により、スクールカウンセラーや教育相談係と連携する。 ・必要に応じて保護者との連携を密にし早期対応に努める。	・本人への自覚を促すと共に家庭への連絡を徹底する。 ・家庭連絡の徹底と保護者との情報共有を図り、長欠生徒については教育相談係やスクールカウンセラーも活用して早期対応を徹底する。 ・引き続き法令に則り適切に対応していく。 ・二面談、三面談等を通じて情報の共有化と実態把握に努める。 ・教育相談係やスクールカウンセラーも活用し、生徒理解に努める。	
		14) 学校から提供される進路情報が役立つと評価する生徒が70%以上である。(A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満)	A	A	A	・進路関係行事のさらなる充実を図り、外部機関とも連携して的確な進路情報を生徒や家庭に発信する。 ・配布された資料を授業・LHR・学年集会等で有効活用する。 ・同窓生等の社会や上級学校で活躍している先輩とのつながりを大切にし、在校生への情報提供を促す。			・入学試法等の最新の情報の収集に努め、卒業生の情報や進路に関する社会情勢等も勘案した計画を発信する。 ・配布された資料を授業・LHRなどで有効活用する。
		15) 進路通信を定期的に発行している。(発行予定 8回)	A	A	A	・各学年の学年主任や進路担当職員の連携を密にし、学年に応じた進路情報を定期的に提供するとともに、進路室やクラスでの情報掲示にも努める。			・各学年に担当職員を配置し、学年に応じた進路情報を定期的に提供する。
7 計画的な指導を行っていますか。	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	16) 進路関係の行事に積極的に参加したと自己評価している生徒が60%以上である。(A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満)	A	A	A	・進路行事の内容をさらに充実させるとともに行事の意義の説明に努める。 ・卒業生による情報提供を最大限活用する。 ・ICT機器を活用したイベントもあるので、学習用端末活用のスキルを身につけさせる指導も実施しながら情報キャッチを充実させる。	・進路関係の行事の内容をさらに充実させるとともに行事の意義の説明に努める。 ・卒業生による情報提供を最大限活用する。 ・ICT機器を活用したイベントもあるので、学習用端末活用のスキルを身につけさせる指導も実施しながら情報キャッチを充実させる。	・学年主体の進路体制を組み、業者テスト等を効果的に実践する。 ・進路行事の内容をさらに充実させる。情報提供を行う。	
		17) 進路決定は100%である。(A 100% B 98%以上 C 96%以上 D 96%未満)	C	C	C	・多様化する生徒の実態に即して、柔軟に対応する。 ・1年次、2年次、3年次とその学年にふさわしい計画的な指導を行う。 ・業者テストの結果や社会情勢の情報等を活かして、進路意識の向上につなげる。			・1年次、2年次、3年次とその学年に適した計画的な指導を行う。 ・生徒の進路に対する意識を向上させるための工夫を行う。
		18) 参加可能な学校行事等に1回以上参加している保護者が70%以上である。(A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満)	A	A	A	・感染症対策のため保護者が参加できる行事が限定された。その中で実施できた授業公開をさらに充実させるとともに、オンラインで参加できる行事を模索し、通常の学校活動についてWebページ上での報告を充実させてゆく。 ・面談や電話連絡等で、保護者からの意見を聞く機会を充実させる。			・感染症対策等を踏まえた開催条件を勘案した上で行事日程や内容を検討する。参加方法について工夫するとともに、保護者に繰り返し参加を呼びかける。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	19) ホームページ(webページ)を公開し、毎月更新をしている。(A 月2回以上 B 月1回 C 年6回以上 D 年3回以上)	A	A	A	・コロナ禍においてHPの重要性が増す中で、更に充実した内容の情報発信とともに時機に応じた内容の更新を心がける。 ・緊急連絡の入力サイト等、日常的な通信ツールのひとつとしてHPを充実させる。	・コロナ禍においてHPの重要性が増す中で、更に充実した内容の情報発信とともに時機に応じた内容の更新を心がける。 ・緊急連絡の入力サイト等、日常的な通信ツールのひとつとしてHPを充実させる。	・学校や学科コース、行事の紹介だけでなく、生徒や保護者、地域や中学生への連絡の場としても有効に活用できるよう更に工夫し、常に新しい情報を発信するよう努める。	
		20) 学校からの配布物や配信されたメール連絡に目を通している保護者が80%以上である。(A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満)	A	A	A	・保護者連絡を確実にするためのツールのひとつとして更に活用を進める。 ・緊急的な連絡等、速報性が求められる連絡において、更に有効活用する。 ・未登録や送信エラーが無くなるよう保護者との連携を更に充実させる。			・保護者のメール登録を徹底する。 ・資料配付とメール配信システム、HPを併用し、より確実に連絡内容が保護者に届くように工夫する。
		21) ICTを活用した授業に生徒の50%以上が満足している。(A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満)	A	A	A	・社会のニーズに対応しながら生徒の学びを保障するために、ICT機器の活用の重要性は更に増している。また、BYODに向けて、職員研修を実施したり、授業実践を参観することで、更に職員のスキルアップを図る。 ・ICT機器を活用した授業が常態化するなかで義務教育を経た生徒に対して、継続的・効果的にICTを活用することで、生徒の意欲や理解度を高めることにつながる。			・授業の中で生徒も先生もPCを学習道具の一つとして活用している姿に、教育のデジタル化を日常的に推進していると感じました。今後の農業にはAIによる農産物の育成管理や、ドローンを活用した物品の運搬・農業散布、大型農業機器のロボット化などICTの活用も必要不可欠な要素となるのではないのでしょうか。未来の農業を支える生徒の必須項目として今後も推進してほしいと感じています。 ・ICT機器を活用し、学習内容の個別化や深化に努めている様子を見心強く感じました。 ・よく取り組んでいると思います。誰一人取り残さないよう指導下さい。 ・ICT機器を使った授業は年々工夫されてきていて、教師からの一方通行ではなく生徒との相互やり取りができるようになってきたと思う。これからも教員、生徒のスキルアップを望みます。
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	21) ICTを活用した授業に生徒の50%以上が満足している。(A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満)	A	A	A	・授業の中で生徒も先生もPCを学習道具の一つとして活用している姿に、教育のデジタル化を日常的に推進していると感じました。今後の農業にはAIによる農産物の育成管理や、ドローンを活用した物品の運搬・農業散布、大型農業機器のロボット化などICTの活用も必要不可欠な要素となるのではないのでしょうか。未来の農業を支える生徒の必須項目として今後も推進してほしいと感じています。 ・ICT機器を活用し、学習内容の個別化や深化に努めている様子を見心強く感じました。 ・よく取り組んでいると思います。誰一人取り残さないよう指導下さい。 ・ICT機器を使った授業は年々工夫されてきていて、教師からの一方通行ではなく生徒との相互やり取りができるようになってきたと思う。これからも教員、生徒のスキルアップを望みます。	・通常授業や日常的な生徒への学習指導や連絡においてもICT機器を効果的に使用する。 ・ICT機器の操作方法について、更に職員研修を行い、会議等でも使用する場面を持つ。		